

所 報

1. 所員の移動についての報告

ICUにおいて長年にわたって教育哲学の教育・研究に携わってこられた川瀬謙一郎教授が1991年3月退職された。また、8年間にわたって英語学の研究・教育に携わってこられた William Schipper 准教授が1991年8月に退職され、カナダのメモリアル大学に移られた。

2. 研究所活動報告（1990年9月～1991年8月）

1. 研究員

研究員 I (Research Fellows)

- (1) AKIVAGA, Symonds Kichamu, ナイロビ大学上級講師, M. Sc., 国籍: ケニア共和国, 住所: 東京都調布市, 研究題目: 日本の高等教育システム, 研究期間: 1991年6月3日～1992年2月29日, 保証人: ベンジャミン・デューク
- (2) 広瀬恵子, 愛知県立大学外国語学部助教授, 住所: 岐阜県羽島郡笠松町, 研究題目: 応用言語学, 研究期間: 1990年9月1日～1991年3月31日, 指導教授: ジョン・マーハ
- (3) 鬼頭當子, 国際基督教大学教育学部教育学科非常勤講師, 元国際基督教大学図書館長, 住所: 東京都武蔵野市, 研究題目: 国際基督教大学大学院修士論文に掲載された参考文献の分析, 研究期間: 1991年7月1日～1992年3月31日, 保証人: 中野照海
- (4) 道又 爾, 明治学院大学助教授, Ph. D., 住所: 神奈川県逗子市, 研究題目: ストループ型干渉課題における大脳半球機能の非対称性, 研究期間: 1991年4月1日～1992年3月31日, 指導教授: 原 一雄
- (5) Ng'wandu, Pius Yasebasi, タンザニア連合共和国駐日大使, 住所: 東京都世田谷区, 研究題目: 日本における教育と仕事(労働)の関係について, 研究期間: 1991年4月1日～1992年3月31日, 保証人: 讃岐和家
- (6) RASONABE, Marietta, フィリピンナショナルスクール・盲人ガイダンスカウンセラー, M. A., 国籍: フィリピン, 住所: 愛知県刈谷市, 研究題目: 日本にお

ける目の見えない子供たちの個性と性格，研究期間：1991年4月1日～1992年3月31日，保証人：デイヴィッド・ラッカム

- (7) 佐藤史郎，跡見学園女子大学教授，住所：東京都豊島区，研究題目：英語教育における cloze procedure を用いたテストについて，研究期間：1991年4月1日～1992年3月31日，保証人：ランドルフ・スラッシャー
- (8) SOLODOW, Robert, Ph. D., 国籍：米国，住所：東京都港区，研究題目：ライフダイナミックスセミナー参加者の社会的態度・信念変化の経年的効果に関する研究，研究期間：1991年4月26日～1992年4月25日，保証人：中野照海

研究員Ⅱ (Research Associates)

- (1) 原 和子，元東洋英和女学院教諭，住所：東京都港区，研究題目：教育心理学・異文化間教育，研究期間：1991年4月1日～1992年3月31日，指導教授：栗山容子
- (2) 服部純子，国際基督教大学修士号（教育学），住所：東京都三鷹市，研究題目：南紀3地域（沿岸と内陸）における住民意識調査，研究期間：1990年4月1日～1991年3月31日，指導教授：デイヴィッド・ラッカム
- (3) 塚本美恵子，M. A.（コロンビア大学），住所：埼玉県入間市，研究題目：転校生について，研究期間：1991年4月1日～1992年3月31日，保証人：栗山容子

2. 助手

非常勤助手 (Part-time Assitants)

- (1) 川津茂生，M. S.（コーネル大学），住所：千葉県船橋市，期間：1991年4月1日～1992年3月31日（前年度より継続）
- (2) 保坂敏子，国際基督教大学修士号，住所：東京都大田区，期間：1991年4月1日～1992年3月31日

研究室活動報告

教育哲学研究室

I. 人の動き

先に退任した川瀬謙一郎教授の後任として，ユネスコ本部から千葉泉弘教授の着任が決定した（着任1991年9月1日）。林昭道教授は1991年4月1日から特別研究期間に入った（1992年3月31日まで）。また，1991年4月1日付けで，永田佳之（博士後期過程）が副手に着任した。

Ⅱ．研究活動

文部省科学研究費補助金に基づく研究計画、「日米四年制大学における単位制度の実態と将来に関する比較調査研究」（一般研究C 研究代表者讃岐和家教授）および「アメリカ高等教育における能力観と制度変革とに関する史的研究」（総合研究A 研究代表者立川 明準教授）とは共に最終年度となり、それぞれ3月に論文および報告書をまとめた。

Ⅲ．研究会・その他

1990年9月9日：大学院教育哲学研究室研究会（修士論文中間発表を中心に）

1991年2月4日：教育学科教育学専修生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文発表会

1991年4月14日：大学院教育哲学研究室研究会（新入生の研究計画を中心に）

1991年7月31日：ICU教育セミナー（八王子セミナーハウスにて。卒業生教員学部
—8月2日 学生，大学院学生，およびICU教員参加。明治学院大学松浦良充
助教授による講演があった。

讃岐和家教授

研究活動

1. 現代日本の高等教育の改革課題について研究を行った。
2. キリスト教学校教育の理念と課題に関する研究を行った

学会発表・参加

1. 1990年10月20～21日，教育哲学会大会に参加し，第2日目午前の一般研究発表第一室の司会をつとめた。
2. 1991年8月28～30日，日本教育学会大会（於・東京大学）に参加し，第2日目の「課題研究Ⅱ 高等教育の改革課題」において，「高等教育の改革課題—一般教育をめぐって—」と題する提案を行った。

論文

「日米両国の四年制大学における単位制度の比較に関する研究」、『教育研究』33，1991年3月，1—24ページ。

書 評

1. 「井門富二夫『大学のカリキュラムと学際化』, 雑誌『I D E』, No.326, 1991年7月, 71-72ページ。
2. キリスト教学校教育同盟(編)『キリスト教学校教育の理念と課題』の第2章「キリスト教学における礼拝」および第4章「キリスト教学校の教師論」の「解題」を執筆した(91年12月刊行予定)。

その他

1. 一般教育学会, 学会事務局長(91年3月まで), 常任理事, 学会誌常任編集委員。
2. 日本キリスト教学会, 常任理事。
3. 教育哲学会, 監査。
4. 日本学術会議, 教育学研究連絡委員会, 委員(91年6月まで)。
5. 文部省, 一般教育視学委員(91年3月まで)。
6. 三鷹市, 教育委員(91年10月まで)。
7. 民主教育協会, 「学生生活セミナー」の「関東甲信越地区セミナー」実行委員。

ベンジャミン・C・デューク教授

Research Activities :

Completed a two-year research project on leadership and education for the 21st Century ; conducted field studies America, Britain, and Japan.

Undertook research on the activities of Charles Lanman as Secretary of the Japanese Legation in Washington in 1872.

Publications:

Charles Lanman : The Japanese in America—1872, in Cultural Relations Between Japan and the United States in the Late Nineteenth Century, under a grant by the ministry of Education

Professional Activities :

English Editor, Japanese Journal of Education

立川 明準教授

研究活動

文部省の科学研究費補助金総合研究(A)の第4回(最終)全体集会を, 1990年12月

8日、9日三鷹において開催、全国から20名の研究者の参加を得た。2年間にわたる成果は、報告書『アメリカ高等教育における能力観と制度変革とに関する史的研究』（研究代表者 立川 明、v+204ページ）として、1991年3月に印刷した。なお最終全体集会では、本学 Ben C. Duke 教授から、講演をとおして専門的知識の供与を得た。記して感謝する。

学会参加

上記研究会を主催した他、多摩学会（於・中央大学）6月1日、International Standing Conference for the History of Education (Zurich)、8月12日-15日、近代教育思想史研究会（於・中央大学駿河台記念館）8月27日、日本教育学会（於・東京大学）8月28日-30日等に参加した。

著作

A. 研究論文

- (1) “The Honors Program on Trial : Swarthmore in the 1920s.” *Journal of the Midwest History of Education Society*. XX (1991), 印刷中
- (2) 「オーナーズ・プログラムと能力観」『アメリカ高等教育における制度変革と能力観とに関する史的研究』（科研 総合研究A 研究代表者 立川 明 研究報告書 1991年4月）に収録 133-153ページ
- (3) 「ヒッチコックの科学思想のクラークの科学研究に対する影響」『19世紀後半における日米文化交流』（科研 一般研究 研究代表者 大西 直樹 研究報告書 1991年3月）に収録 63-75ページ
- (4) 「オレスティーズ・A・ブロンソンの社会批判と学者批判：1840年代の初期を中心に」『社会科学ジャーナル』（斎藤 真教授古希記念号 1991年発行予定）20ページ 印刷中

B. 書評

- (1) “Review of Richard Lynn’s *Educational Achievement in Japan : Lessons for the West.*” *Pacific Affairs* (Canada), Vol.63, No.3 (Fall 1990), pp.392-93.

C. その他の出版物

- (1) 「留学中・帰国後に考えたこと」『海外子女教育だより』40 (Apr1991) 5-7.
- (2) 「留学フェアを振り返って」『留学交流』Ⅱ, 2 (1990. 4) 20-21.
- (3) 「日本留学フェア参加者報告会」 *JAFSA* 年報 1991, 102-107.
- (4) 「講義についての考察」国際基督教大学FD研究会編 『大学における授業』1991, 13-17.

- (5) 「座談会：日本語教育の現在：留学生をどうするか」 アルク『日本語教育』
8, 1991, 11-19.

その他

日本教育学会『教育学研究』 英文校関係

林 昭道助教授

研究活動

1. 近代ヨーロッパ教育思想史研究。
2. 教育の諸概念の成立史（特にドイツ教育思想を中心に）。

影山 礼子副手

I. 研究発表および講演

- 1990年10月 「成瀬仁蔵の教育思想——その形成過程と日本女子大学校における展開」 日本女子大学桜楓会横浜支部講演会（神奈川婦人会館）
- 1991年1月 「成瀬仁蔵の教育思想——そのプラグマティズムの教育」 日本教育史学会（講堂文庫）
- 1991年2月 「近代日本の女子教育」 品川区自主グループ主婦を考える会（品川区勤労者福祉会館）
- 1991年7月 「子どもの遊びと人間形成」 東京交通短期大学教養特別講座
- 1991年8月 「成瀬仁蔵の目指した＜新しい女性＞像——アメリカ日記と『新婦人訓』を中心に」 日本女子大学桜楓会成瀬先生研究会夏期研修会（日本女子大学軽井沢三泉寮）

II. 研究論文および著書

- 1990年10月 「成瀬仁蔵と渋沢栄一——その交流と教育思想における接点」『渋沢研究』第2号，渋沢資料館
- 1991年5月 「現代日本の子どもと遊び——人間形成の課題として」（共著） 下山田裕彦他編『遊びの思想』川島書店
- 1991年6月 「メディアに働く女性の意識と役割——日本の事例研究から」 岩男寿美子他編『情報社会を生きる女たち——コミュニケーションの視点から』NHKブックス（日本放送出版協会）（共著）

Ⅲ．その他

1991年8月 博士論文中間報告書提出 「成瀬仁蔵の教育思想——成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育」

大川 洋副手

1. 研究活動

- 1) エラスムスの教育思想を『子どもの教育について』(*De pueris instituendis*, 1529)を中心に研究している。特に、この著作が修辞学の模範文として執筆されたことに着目することによって、教育思想解釈にどのような新しい視点が得られるかを様々な角度から検討している。
- 2) 「エラスムスの教育思想研究——『子どもの教育について』(1529年)を中心として——」(A Study on the Educational Thought of Desiderius Erasmus : with Special Emphasis on “De pueris instituendis” (1529))という学位請求論文の中間報告を大学院事務室に提出した(1991年8月30日)。
- 3) 「エラスムスの教育論における民衆教育の視点」、および「コメニウスの教育思想に与えたエラスムスの影響」について研究発表準備中。
- 4) エラスムスの『子どもの教育について』(*De pueris instituendis*, 1529)という著作を、ラテン語の原文から日本語に翻訳する作業を開始した。
- 5) 16世紀前半の人文主義者の教育思想を総合的に研究するため、エラスムス、コレット、トマス・モア、ヴィヴェス、およびラブレーに関する文献の蒐集に努めた。

2. 学会発表

「エラスムスの子ども観」、教育哲学第33回大会(1990年10月20日、中央大学)。なお、『発表要綱集録』30～31頁に発表の要旨が集録されている。

3. 研究論文

- 1) 「ラブレーの教育思想に与えたエラスムスの影響」(『フランス教育学会紀要』第2号, 1990年9月, 19～30頁)。
- 2) 「エラスムスの教育論における宗教教育の位置」(日本キリスト教教育学会編集発行『キリスト教教育論集』創刊号, 1991年5月, 40～54頁)。

4. その他

- 1) 日本学術振興会特別研究員に採用された(採用期間: 1991年4月～1993年3月)

- 月)。研究課題は、「エラスムスの教育思想研究 ——『子どもの教育について』(1529年)を中心として ——」。
- 2) 上記研究課題に対して、平成3年度文部省科学研究費補助金(特別研究員奨励費)の交付を受けた。
 - 3) フランス教育学会の幹事を務めた(1989年9月23日～)。
 - 4) 平成元年度・2年度文部省科学研究費補助金交付研究「フランスの道徳・公民教育に関する総合的研究」(研究代表者 石堂常世)の研究協力者となり、「フランスの道徳・公民教育に関する文献目録」の中の「仏語文献目録」(『フランスの道徳・公民教育 資料集』1991年3月, 171~208頁)の作成を補佐した。

心理学研究室

人の動き

1991. 4. 1 原 一男教授 研究休暇(1992. 3. 31まで)
 巖岩秀章, 井上直子, 権藤桂子, 岡林秀樹, 谷野汐里, 野村 学,
 足立美絵, 荻原美文, 田邊宏樹, 鈴木千尋, 非常勤副手に就任。

非常勤講師

- 1990 秋学期 池田 央 (立教大学社会学部教授)
 「EPS453J 教育心理学演習Ⅱ」
 平木 典子 (日本女子大学人間科学教授)
 「EPS561J ガイダンス・カウンセリング研究Ⅱ」
- 1990 冬学期 永田 良昭 (学習院大学文学部教授)
 「EPS170J 社会心理学」
 苫米地 憲昭 (ICUカウンセリングセンター主任)
 「EPS320J 思春期・青年期心理学」
 鳥居 修晃 (聖心女子大学文学部教授)
 「EPS352J 知覚の心理学」
- 1991 春学期 青木 邦子 (東京女子大学現代文化学部教授)
 「EPS222J 発達の心理学」
 青木 孝悦 (千葉大学文学部教授)
 「EPS344J 人格の心理学」

- 藤永 保 (お茶の水女子大学文学部教授)
 「EPS405J 教育心理学研究Ⅱ」
- 平木 典子 (日本女子大学人間社会学部教授)
 「EPS461J ガイダンス・カウンセリング研究Ⅰ」
- 佐治 守夫 (日本精神衛生技術研究所所長)
 「EPS464J 教育心理学研究Ⅳ」
- 池田 央 (立教大学社会学部教授)
 「EPS315J 心理統計Ⅱ」

心理学談話会・講演会

1991. 6. 11 向井敦子講師 「文章産出過程における視点変換」

論文発表会

1991. 9. 25 卒論中期発表会(1)
 10. 2 卒論中期発表会(2)
 10. 9 卒論中期発表会(3)
10. 6 修論中間発表会
1991. 1. 18 修論発表会 発表者 6名
2. 8 卒論発表会 発表者 21名
5. 21 卒論計画書発表会(1)
 5. 28 卒論計画書発表会(2)
6. 2 修論計画書発表会
6. 6 6月卒業生卒論発表会 発表者 5名

心理学サマー・セミナー

1991. 7. 1-4 「心へのアプローチ」
 於 八王子大学セミナーハウス
 参加者 教員5名 院生・学部生84名

(実行委員長：三沢 新 アドバイザー：D. Rackham)

その他

1991. 2. 17 非常勤講師慰労会 於 ビストロ・アヴィニョン

修士論文

1991年3月卒業者

- 出井 まり 日常的なもめごとにおける夫婦の解決のストラテジーの選択について
- 井尻多希子 米国在住経験をもつ日本人学生の社会的認知に関する一研究
—米国在住時年齢別比較を通して—
- 河津 真子 児童の位置と方向の理解に関する発達の研究
—基準系概念学習の効果から—
- 岡林 秀樹 大学生の人生観と学生生活に対する態度の関連について
- 辻 あづさ 成体雄マウスにおける生活空間密度過多と新生仔に対する攻撃行動、及び性行動との関係
- 谷野 汐里 遊戯療法における分裂機制の治療的機制の臨床的検討

原 一雄教授

I. 研究活動

1. 神経心理学的研究：カフェインの学習に及ぼす精神薬理的効果
2. 教育心理学的研究：
 - a) 大学生の価値観と教育環境の評価
 - b) 警察機関における少年相談
3. 高等教育に関する研究：
 - a) 大学教員の教授資質開発（FD）プログラムの実践的試行
 - b) 大学の総合的自己点検・評価

II. 学会発表

1. 「国際基督教大学における入学選抜の理念と実践」 第18回日本行動計量学会大会（於 東京女子大学現代文化学部） 1990. 9. 19
2. 「『大学の自己点検・評価』：その主体は誰、対象は何？」 一般教育学会1990年度課題研究集会シンポジウム2：大学の自己評価（於 上智大学） 1990. 11. 11
3. 「一般教育科目受講態度の要因分析」 一般教育学会第13回大会（於 東京農

工大学) 1991. 6. 8

Ⅲ. 論文・著作

1. 「私立大学の試みから」 広島大学大学教育研究センター編 『大学評価 — その必要性と可能性 —』 44-47, 1990
2. 「今こそ大学人の力量が問われるとき — 500のシナリオに期待して」『I D E — 現代の高等教育』 No.320 31-36, 1990. 12
3. 「Posttraining commissure section and interocular transfer of discrimination learning in Rhesus Monkeys」 国際基督教大学学報 I - A 『教育研究』 33, 25-36, 1991. 3
4. 「大学の自己点検・評価 — その主体と対象」『一般教育学会誌』13(1), 27-31, 1991. 5
5. 「成績のつけ方」 国際基督教大学FD研究会編 『大学における授業』(FDプログラム研究レポート Series No.5) 53-55 1991. 7
6. 「学生による授業評価」 国際基督教大学FD研究会編 『大学における授業』(FDプログラム研究レポート Series No.5) 71-81 1991. 7
7. (編著)『大学教員のための教授資質開発 (FD) プログラムの策定と実践的試行』(課題番号63450040) 平成2年度科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書(研究代表者) Pp. 55. 1991. 3
8. (編著)『少年相談の効果的促進法に関する調査研究』(財)社会安全研究財団助成研究報告書 Pp.232 1991. 3
9. (編著)『FDプログラム参考資料集』(FDプログラム研究レポート Series No.6) Pp.165 1991. 7
10. (編著)『一般教育プログラムの手引』(FDプログラム研究レポート Series No.7) Pp.120 1991. 7

Ⅳ. その他

1. (講演)「一般教育の現在と未来」 防衛大学校(於 横須賀 1990. 10. 4)
2. (講演)「学生による授業評価の問題点」 東京理科大学(於 千葉 1990. 11. 13)
3. (講演)「大学の活性化とスタッフ・ディベロップメント」 日本私立大学連盟 財務・人事担当理事者会議 (於 伊豆下田 1991. 7. 5)
4. (随筆)「赤城合宿の思い出」 栗原 久・平手謙二編『動物の学習・記憶試験』群馬大学医学部附属行動医学研究施設行動分析部門 149-150 1990. 9

5. (随筆)「蘇れ、海機の教養教育と五省の精神」 海軍兵学校77期回 『江田島』
No.53, 15-16 1991. 5
6. (座談会)「大学再建は研究・教育業績の公開、評価から 1, 2回」 『週刊教育PRO』 No.31, 20-26 1991. 8. 13; No.32, 16-20 1991. 8. 27
7. 学会役職等
 - (1) 日本心理学会, 英文アブストラクト校閲委員, 『執筆・投稿の手引』改訂委員
 - (2) 日本基礎心理学会, 常任運営委員, 『基礎心理学研究』誌常任編集委員, 文部省科学研究補助金学会代表選考委員
 - (3) 日本生理心理学会, 常任運営委員
 - (4) 一般教育学会, 評議員, 『一般教育学会誌』常任編集委員, 「解説」欄担当
 - (5) 広島大学大学教育研究センター客員研究員
 - (6) 大学セミナー・ハウス大学教員懇談会FDプログラム小委員会委員
 - (7) 日本私立大学連盟研修企画委員会副委員長, 大学問題階層別研修主査
 - (8) (研究助成金)(財)社会安全研究財団/警察庁科学警察研究所「少年相談の効果的促進法に関する調査研究」(研究代表者・カウンセリング研究会委員長)

栗山 容子準教授

I. 研究活動

1. 幼児期の子どもの, 母親からの分離の不安に関する研究と, これに関連する母親の子どもに対する意識・感情の分析。また, 母親のこれらの意識・感情を対人関係の認知と性役割に基づく人格特徴との関連において検討。
2. ハイ・リスク児のフォロー・アップ・スタディ
ハイ・リスク児の認知発達と認知発達に関連する気質の面から, 縦断的に追跡調査・観察を引続き行っている。対照群としての正常児の観察も同時に実施。また, 認知発達検査として Symbolic Play Test の開発の試みを開始。
3. 教育実習生の評価の問題
教授スキルの評価尺度の検討と合わせて教師としての適性を尺度化できるような新しい評価項目の検討を行っている。
4. 幼児・児童期における協同的行動の発達の検討
2人ゲーム遊びにおける行動の制御とルールによる協同的行動の発達をゲーム遂行と交互作用の分析より検討。

II. 学会発表

1. 「保育園児の分離による不安と子どもに対する母親の意識」(1)

2. 「保育園児の分離による不安と子どもに対する母親の意識」(2)
日本教育心理学会第32回総会 1990.10.11-13 於 大阪大学 (大竹信子他
と共同発表)
3. 「2-4歳児の2人場面における象徴遊びの発達(4)ふたりのインタラクション」
「2-4歳時の2人場面における象徴遊びの発達(5)構成遊びの発達」
日本教育心理学会第32回総会 1990.10.11-13 於 大阪大学 (星三和子
蓮見元子と共同発表)
4. 「幼児の分離不安-P E Pによる測定」日本発達心理学会第2回大会 1991.3.
29-3.31 於 お茶の水女子大学 (大竹信子他と共同発表)
5. “A study of Japanese mothers’ perception of their young children in
relation to separation anxiety” The Second European Congress of Psychology,
8-12 July 1991, Budapest, Hungary (first author)
6. “Patterns of cooperation and competition among Japanese participants in a
modified version of Prisoner’s Dilemma Game (PDG)” Ninety-ninth Annual
Convention of the American Psychological Association, San Francisco,
California, August 16-20, 1991, USA. (D. W. Rackham, first author)

Ⅲ. 著 作

1. 「教育実習の評価の問題」 教師教育研究 1991. Vol. 3, 64-71.
2. 「ICUに於ける教育実習の評価の諸問題-実習生への評価結果の報告」 国際
基督教大学学報 I-A 教育研究 33, 1991. p.37-45
3. “A preliminary study of tendencies to cooperate and compete by Japanese
and Japanese Returnee students in a modified multi-play prisoner’s dilemma
game” 国際基督教大学学報 I-A 教育研究 33, 1991. p.47-82 (D. W.
Rackham, first author)
4. 「学習者自身による客観テストの作成と評価の試み」教育学論説資料第4号 19
91, p.83-90 北辰/論説資料保存会(再収録)

Ⅲ. その他

1. 「入学試験研究報告書-1991年度」 入試研究主任(継続)
2. 三鷹市個人情報保護委員会副委員長(継続)
3. 研究助成金
厚生省研究助成金「ハイ・リスク児のフォロー・アップ・スタディーハリスク
児の発達状況・行動特徴と、これに影響を及ぼす家庭要因に関する縦断的研究

一) (代表 東京慈恵会医科大学教授 前川喜平) (継続)

4. ICU平和研究所所員 1991.3.1.-

小谷 英文準教授

I. 研究領域

1. 精神療法技法

1)個人精神療法 2)集団精神療法 3)コンバインドセラピー 4)インテンシヴセラピーの各種治療的介入の検討, 開発と技法構成のシステム論的研究

2. 難治事例の心理力動理論

1)シゾイドプロセスの力動的メカニズムの解明と治療技法の構成 2)女性のエディプス発達理論

3. 精神療法のトレーニングメソッドの開発

II. 学会発表等

1. 指定討論者 日本心理臨床学会 事例研究発表

シンポジスト「個人精神療法と集団精神療法の接点：その効用と限界」 自主シンポ「個人精神療法と集団精神療法」 9月23, 24日 1990年 主管 東京大学 於 大正大学

2. 研究発表「慢性分裂病者に対する期間制限集団精神療法Ⅰ：効果と技法構成の検討 2月2日 於 名古屋市

III. 論文

1. 「難治性患者におけるシゾイド循環プロセスからの脱却と集団力動」 集団精神療法 第7巻1号 1991, pp.21-28.

2. 「一般システムズ理論による個人力動と集団力動の治療的相互作用の仮説的理論構成」(井上直子・小谷英文) 集団精神療法 第7巻1号 1991, pp.76-82.

IV. 著作

1. 「集団精神療法」氏原 寛 (近刊)「臨床心理学ハンドブック」第3部第3章

2. 「思春期における集団の力とその意味」 月刊 生徒指導 1991, 6, 18-23.

3. 「登校拒否児にとっての集団の意味」 愛育炎15周年記念登校拒否問題セミナー抄録集 1991, 17-22.

V. 講演等

1. 面接技法指導 家庭裁判所調査官研修所 9月11, 13, 21日 10月2日礎 2.

- 公開事例研究指導「生活の中でのある小集団へのアプローチ」
 講演「登校拒否児にとっての集団の意味」 於広島市児童総合相談センター
 9月29日 1990年。
3. 個人精神療法「応答構成」技法ワークショップ 厚木児童相談所 10月5, 12, 26, 27日 1990年。
 4. 講演「集団力動と組織運営」 於キリンビール社員相談室 10月8日 1990年。
 5. 日本集団精神療法学会研修会 集団精神療法ワークショップ「小集団精神療法の力動的基礎」担当 於東京都中部総合精神保健センター 11月24, 25日 1990年。
 6. 講演「人格理解と面接技法」
 事例研究指導「人格理解に基づいた事例理解」 家庭裁判所調査官研修所 11月27日 1990年。
 7. 講演「カウセリングにおける面接法」於三鷹市ハピネスセンター 12月11日 1990年。
 8. 講演「精神分裂病者に対する集団精神療法」於国立療養所 悠久荘(長岡市) 1月22日 1991年。
 9. 講演「集団精神療法の効用」於ルーテル神学大学 3月4日 1991年。
 10. 臨床技法指導「インターク面接の基礎」於板橋教育相談室 3月11日 1991年。
 11. ワークショップ「看護婦主体性訓練：看護応答構成」於津田塾会館 3月16, 17日 1991年。
 12. 講演「力動的集団精神療法の理論と実際」精神保健専門講座－春期講座 安田生命社会事業団 於安田生命教育センター 4月13日 1991年。
 13. 講演「ストレス社会における職場の人間関係論再考」於日精研心理開発センター 5月20日 1991年。
 14. 講演「登校拒否と集団」於青山心理臨床センター 5月25日 1991年。
 15. ワークショップ「ロールプレイ技法の展開」於東京都教育研究所 6月26日 1991年。
 16. 集中講義「臨床心理学」広島大学学校教育学部 7月11, 12, 13, 14日 1991年。
 17. ワークショップ「集団精神療法－その理論と実際」平成3年度全国情緒障害児短期治療施設研修会 7月25日 1991年。
 18. ワークショップ「個性性を重視した教育－教師のためのエンカウンターグループ」広島県教育委員会 於広島県教育研究センター 7月31日 8月1, 2, 3日 1991年。

19. 講演「精神分裂病者の精神病理と個別指導と集団指導」於広島市精神衛生指導センター 8月5日 1991年。
20. ワークショップ「たこてんワールド」(集中的活動集団精神療法ワークショップ) 於菅平 8月26, 27, 28, 29日 1991年。

VI. その他

1. 日本集団精神療法学会 常任理事 渉外委員長 学会誌編集委員 研修委員
2. 日本心理臨床学会 大学・大学院教育カリキュラム検討委員
3. PCAウィークエンド運営委員長 (1991年3月まで)
4. 長谷川病院集団精神療法顧問

デイヴィッド・W・ラッカム準教授

Research Activities

- D. W. Rackham with Y. Kuriyama - Explorations of decision-making strategies in a cross-cultural context using a modified version of the Prisoner's Dilemma Game.
- D. W. Rackham - Pavlovian discriminative conditioning in the black bass, *Micropterus salmoides* and the three-spined stickleback, *Gasterosteus aculeatus*.
- D. W. Rackham - The historical dimension in undergraduate studies in psychology.
- D. W. Rackham - Psychological health, spiritual health, and their interrelationships.

Conference Attendances and Presentations

- Neurolinguistics Conference, ICU, November, 1990.
- Council of Cooperation/Kyodan-Related Missionary conference/consultation on cooperative mission, Hakone, Japan, May, 1991.
- Study Group on "Mind and Brain" issues held at the Psychology Summer Seminar, Hachioji, JAPAN, July, 1990.
- *Patterns of cooperation and competition among Japanese participants in a modified version of the Prisoner's Dilemma Game (PDG)*. Paper presented at the 99th Annual Convention of the American Psychological Association (Division 48 - Peace Psychology), San Francisco, California, U. S. A., August, 1991.

Publications

- Rackham, D. W., and Kuriyama, Y. (1991). A preliminary study of tendencies to cooperate and compete by Japanese and Japanese Returnee students in a modified, multi—play Prisoner's Dilemma Game (PDG). *Educational Studies*, 33, 47—82.
- Rackham, D. W. (1991). Discriminative courtship conditioning in the pigeon, *Columba livis*. Prepared for Volume 34 of *Educational Studies*.

Other Activities

- English language proof—reading services for Japanese Psychological Association publications and ICU colleagues.
- Member, Board of Trustees, American School in Japan (ASIJ)
- Subscription and circulation on behalf of *The Japan Christian Quarterly*
- Leader, weekly adult class, West Tokyo Union Church.
- Faculty liaison for planning, Psychology Summer Seminar held annually in July at the Inter—University seminar House, Hachioji, Japan.
- A variety of ongoing activities of an educational and service nature in connection with missionary associate status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan).

向井 敦子講師

I. 研究活動

- (1) 対人状況における認知判断と視点との関係
- (2) 対人過程における心理学的意味の規定因の考察
- (3) 作文及び算数における自発的発見学習の実践的試み

II. 学会発表

- (1) 「集団討議場面に対する態度と原因帰属(Ⅱ)——課題遂行行動のみたてと遂行した行動への自己評定を手がかりにして——」日本教育心理学会第32会総会発表論文集 p.332, 1990。(於, 大阪大学, 同発表部門の座長をつとめた。)

III. 著作

- (1) 「親子関係」対人行動学研究会(編)「対人行動学ガイド・マップ」N-1 ブレーン出版 p.58-59. 1990.
- (2) 「自己および自我を実現させる媒体としての「あなた」の心理学的含意」(深谷

視聴覚教育研究室

1 人の動き

海後宗男が1990年9月より、飛田ルミ、高橋直子、金城尚美が1991年4月より、新たに副手に就任した。また、次の副手が辞任した。

佐々木輝美(91/3辞任)は1991年4月、獨協大学外国語学部の専任講師に就任。

待鳥 敏子(91/3辞任)は1991年4月、慶應大学国際センター非常勤講師に就任。

高嶋真理子(91/3辞任)は1990年9月、産業能率短期大学の留学生別科非常勤講師に就任。

齊藤 由也(91/8辞任)は1991年9月、日本基督教短期大学助手に就任。

森 祐治(91/8辞任)は米国 Golden Gate 大学経営学大学院(P R専攻)へ留学。

2. 研究活動

氏名：和田正人

研究活動：マス・コミュニケーション接触の研究

学会発表：1990年11月第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会において、「テレビ番組別の接触行動に関する研究(2)」を発表(阿久津喜弘、佐々木輝美との共同研究)

学会参加：1990年9月 日本社会心理学会第31回大会に参加

1990年10月 日本教育社会学会第15回大会に参加

1990年10月 日本教育心理学会第32回総会に参加

1990年11月 第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会に参加

氏名：森 祐治

期間：1990年4月～1991年8月

研究活動：1. メディア研究に於ける認知科学の視点の導入

2. メディア・スキーマと社会的勢力の関係に関する研究

3. メディア・イノベーションに関する研究

学会参加：1990年11月 第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大

会に出席。

1991年5月 第3回日本コミュニケーション研究者会議（南山大学）に出席。

その他：ICUの学内用語に関する調査研究（藤本泉氏との共同研究）

氏名：飛田ルミ

研究活動：外国語の読解学習におけるメタ認知学習方略の適用に関する研究

学会活動：1990年11月 第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会に出席。

その他：全国の大学における視聴覚教育・放送教育の講座に関する研究

氏名：南雲弥恵子

研究活動：1. 聴解を中心とした外国語学習に関する基礎研究

2. コンピュータを用いた日本語学習支援システムの開発

学会参加：1990年11月 第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会に出席

1991年5月 平成3年度日本語教育学会春季大会に出席

1991年6月 平成3年度語学ラボラトリー学会（LLA）関東支部研究会出席

その他：「テレビニュースを中心とした日本語学習用CAIコースウェアの開発」（1988年度放送文化基金助成「放送番組を中心とした音声・文字・画像併用外国語学習パッケージの開発研究」代表者中野照海の一部）に研究協力者として参加。

「テレビニュースを中心とした日本語聴解学習パッケージの開発」（1990年度放送文化基金助成、代表者鈴木庸子）に研究協力者として参加。

氏名：藤本 泉

研究活動：外国語学習（英語、日本語）におけるハイパーメディア型学習材の設計に関する基礎的研究。

学会参加：1990年11月 第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会に出席。

1991年5月 平成3年度日本語教育学会春季大会に出席。

1991年6月 平成3年度語学ラボラトリー学会（LLA）関東支部研究会に出席。

その他：ICUの学内用語に関する調査研究（森 祐治氏との共同研究）

氏名：金城尚美

研究活動：日本語教育に於ける視聴覚教材，特に聴解・ビデオ教材の開発研究。

氏名：高橋直子

研究活動：放送を用いた成人・幼児の教育番組の研究

氏名：海後宗男

研究活動：メディアによる社会的現実の認知構造に関する研究

中野 照海教授

I. 研究活動

1. ニューメディア教材の研究開発事業（文部省教育改革の推進に関する研究依託・日本視聴覚教育協会、第2年次3カ年計画第1年度研究助成、座長）
2. 視聴覚教育メディア研修マニュアル・ビデオの開発（文部省依託研究・主査）
3. 教育放送の技術移転の課題——教育用ソフト開発の国際協力（放送文化基金助成、研究代表）
4. トルコ厚生省コミュニケーション・センターの運営に関わる基礎調査——KAP調査を中心にして（第3年次、国際協力事業団によるプロジェクト）
5. 幼児番組国際版マニュアル作成（放送文化基金助成、NHK・フジTVとの共同研究、共同研究者）
6. 学部教育教材の制作と評価分析（文部省科学研究費助成、放送教育開発センター研究プロジェクト、共同研究者）
7. 教育メディアの発達史編纂（文部省科学研究費助成、放送教育開発センター研究プロジェクト、共同研究者）

上記は研究助成を得て行なっているものであるが、その他に視聴覚教育の評価の問題、画像コミュニケーションの基礎的研究、授業のモデルの問題、「教育の方法及び技術」の構成に関する研究（日本教育工学会）、「視聴覚教育メディア研修カリキュラム手引書」（文部省教育メディア部会）などの研究活動を継続中である。

II. 学会発表等

1. 課題研究「国際協力のための視聴覚・放送教育」第27回日本視聴覚教育学会・

- 第35回日本放送教育学会合同大会、品川区立区民館、1990年11月5-6日。
2. 「ハイパーメディア教材利用学習における学習の機制に関する実証的研究」(飯吉透と連名) 第6回日本教育工学会大会、千葉大学、1990年9月29-30日。
 3. シンポジウム「情報教育の課題と方法」教員養成系大学研究大会 東京学芸大学 2月17日1991年
 4. “Quality Education through TV Media,” Asia-Pacific Regional Educational Broadcasting Development Seminar 1991, Kuala Lumpur, Malaysia, March 5-7, 1991.
 5. “Use of Audiovisual Media for Information, Education and Communication in Population Education,” The Turkey and Japan Joint Seminar on Population Education, Bolu, Turkey, Aug. 28-29, 1991.

Ⅲ. 著作

1. 「研究の背景と目的」『ハイパーメディア「サイエンス・ハイパーキューブ」試行としてのメディア・ミックス教材の開発—第3年次報告書』日本視聴覚教育協会 1991年, p p. 6-18.
 2. 「研究の総括と展望」『ハイパーメディア「サイエンス・ハイパーキューブ」試行としてのメディア・ミックス教材の開発—第3年次報告書』日本視聴覚教育協会 1991年, p p. 115-120.
 3. 「ニューメディア時代の学習指導」『教授・学習の行動科学』福村出版 1991年, p p. 138-151.
 4. 「『文京文学館』の個人利用実験」『ハイパーメディア「サイエンス・ハイパーキューブ」試行としてのメディア・ミックス教材の開発—第3年次報告書』(飯吉透と共著) 日本視聴覚教育協会 1991年, p p. 133-144.
 5. 「ハイパーメディアの研究と開発の課題—新たな学習メディアの教育の可能性を拓く」『視聴覚教育』6月号 p p. 34-38, 1991年.
 6. 「東京大会のめざしたもの」『放送教育』11月号 1990年 p p. 22-24.
 7. ビデオマニュアル(監修)『ハイパーメディアの世界—「文京文学館」を事例として—』(25分) 日本視聴覚教育協会・パイオニアLDC 1991年.
 8. 「情報技術の進展が教授・学習に及ぼす影響」『学習評価研究』第2巻1号 1991年 p p. 44-51.
- (エッセー)
1. 「画像の新たな働きを探る—心の図柄の活性化」『視聴覚教育』9月号 p p. 42-43, 1990年.

2. 「組織間の協同関係の確立ー学校と大学との公的な連結ー」『視聴覚教育』10月号 p p. 48-49, 1990年.
3. 「学校のインテリジェント化ー人間らしさに向かわなければー」『視聴覚教育』11月号 p p. 48-49, 1990年.
4. 「国際協力のための視聴覚・放送教育ー最高の智恵と能力を挙げてー」『視聴覚教育』12月号 p p. 42-43, 1990年.
5. 「映像メディアの活用ー技術の進歩と教育の効果ー」『視聴覚教育』1月号 p p. 52-53, 1991年.
6. 「講義の活性化の方策をー視聴覚教育メディアの位置づけー」『視聴覚教育』2月号 p p. 60-61, 1991年.
7. 「教育形態としての洗脳ーイデオロギー注入のプログラムー」『視聴覚教育』3月号 p p. 42-43, 1991年.
8. 「教育ソフトの国際的共同利用画像の新たな働きを探るー心の図柄の活性化」『視聴覚教育』4月号 p p. 44-45, 1991年.
9. 「無構造の学習プログラムーサイエンス・ハイパーキューブの世界」『視聴覚教育』5月号 p p. 42-43, 1991年.
10. 「便利になるはずなのにー視聴覚教育研修カリキュラムは難しいかー」『視聴覚教育』6月号 p p. 42-43, 1991年.
11. 「視聴覚教育の国際協力の基盤作りー視具連国際協力委員会」『視聴覚教育』7月号 p p. 42-43, 1991年.
12. 「研修マニュアルの作成ーなにを教え、なにを学ぶかー」『視聴覚教育』8月号 p p. 38-39, 1991年.

IV. 講演等

1. 講義「学校教育と情報化」於国立教育会館筑波分館 9月3日1990年
2. シンポジウム「放送教育の国際協力」全放連大会(東京)11月7日1990年
3. 講演「中学校における放送教育の新たな課題」全放連大会(東京)11月8日1990年
4. 講義「視聴覚教育研修カリキュラム作成の考え方」文部省視聴覚教育指導者講座 国立社会教育研修所 2月5日1991年
5. 講義「学校教育の情報化」文部省中堅教員研修講座(国立教育会館筑波分館)2月15日1991年
6. Intensive Lecture, Problems of Evaluation in Audiovisual Education, JICA Okinawa Center, Feb.25-26,1991.

7. NHKテレビ「アジアの教育放送」『ミッドナイト・ジャーナル』3月25日1991年
8. 講演「教育工学による教育の活性化」栃木県教育工学研究会大会（小山市）5月9日1991年
9. 調査『トルコ人口家族計画プロジェクト延長に関して』（国際協力事業団による）トルコ共和国アンカラ他6月26日－7月6日1991年
10. 講義「情報社会における学校教育の課題」国立教育会館筑波分館 7月19日1991年
11. 講演「創造的教育を目指すハイパーメディア」教育の近代化展（科学技術館）7月2日1991年
12. 研究協議「学校教育・社会教育における視聴覚教育」文部省視聴覚教育指導者講座 国立社会教育研修所 7月26日1991年
13. 講演「多メディア時代における放送教育の課題」全放連特別研修会（神田パンセ）7月31日1991年
14. 講義「学校教育と情報化」国立教育会館筑波分館 8月19日1991年

V. その他

1. 日本視聴覚教育学会理事、学会誌『視聴覚教育研究』編集委員
2. 日本放送教育学会理事、学会誌『放送教育研究』編集委員長
3. 日本教育工学会理事、運営委員、広報委員、論文賞委員会委員、研究奨励賞委員会委員、研究奨励賞小委員会主査、学会誌『日本教育工学雑誌』編集委員
4. 文部省生涯学習審議会特別委員
5. 文部省生涯学習審議会社会通信教育部会委員
6. 文部省生涯学習審議会教育メディア部会長代理
7. 文部省社会教育分科審議会教育メディア部会視聴覚教育研修計画小委員会委員
8. 文部省社会教育分科審議会教育メディア部会「新しい映像環境」に関する検討委員会委員
9. 国立民族学博物館情報システム検討委員会委員
10. 国際協力事業団医療協力検討部会委員
11. 放送教育開発センター客員教授
12. NHK学校放送中央諮問委員会委員
13. 「日本賞教育番組国際コンクール」（NHK）審査委員会副会長（1991年11月）
14. 「視聴覚教育賞」（文部省・日本視聴覚教育協会）選考委員
15. 日本映画機械工業会・日本工業標準（J I S）新規原案作成委員会映写機等小

委員会委員

16. 財団法人日本視聴覚教具連合会会長
17. 財団法人日本教育工学協会理事
18. 教育ソフト開発国際協力会議代表

石本 菅生教授

I. 研究活動

日本語教育用C A I システム開発研究
大学における情報教育カリキュラムについての研究

II. 学会発表・参加

第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会（1990年11月5日於品川区会館）において「初級日本語における動詞の活用自動化を促すC A Iの開発」を樋浦小静と連名で発表
第6回日本教育工学会に参加（於千葉大学）

III. 論文・著作

日本語教育のための知覚運動過程を重視した漢字書字学習用Cの開発（駒井利江と共著）『視聴覚教育研究』第21号，1991年3月

テレビニュースを素材とした日本語学習用C A I コースウェアの効果－「選挙関係ニュース」聴解練習用教材－（高木裕子・鈴木庸子他と共著）『関西外国語大学日本語教育論集』第1号，1991年10月

『現代学校教育大辞典』の項目執筆

IV. その他

日本視聴覚教育学会理事
日本放送教育学会理事
私立大学等情報処理教育連絡協議会情報教育研究委員会委員

阿久津 喜弘教授

1. 研究活動

- (1) 「メディア行動」に関する研究
- (2) 「教育コミュニケーション」研究の体系化

2. 学会発表

- (1) 「テレビ暴力番組の類型化に関する研究(2)－利用と満足研究の応用」(佐々木輝美・和田正人との共同研究)日本教育社会学会第42回大会(1990年10月6－8日, 香川大学)
- (2) 「テレビ番組別の接触行動に関する研究(2)」(佐々木輝美・和田正人との共同研究)第27回日本視聴覚教育学会・第35回日本放送教育学会合同大会(1990年11月5－6日, 品川区立総合区民会館)

3. その他

- (1) 日本視聴覚教育学会理事、編集委員
- (2) 日本放送教育学会理事、編集委員
- (3) 日本教育社会学会評議員
- (4) 三鷹市社会教育委員

英語教育研究室

This year saw the retirement of long-time department member Richard Linde and of newcomer William Schipper. Coupled with the regularly scheduled academic leaves of Frederick Peng and Eiichi Kobayashi, 1990 was period of relative quiet for the reduced staff, a pause in the ongoing efforts to revise the department's curricular offerings.

小林栄智教授

I. 研究活動

1. 古英語散文の語い研究
2. The Old English Version of *Apollonius of Tyre* と *Historia Apollonii Regis Tyri* との比較研究
3. 高等学校英語教育の教材研究

II. 学会参加

1. 日本中世英語英文学会
2. 日本英文学会
3. 全国英語教育高松研究大会

III. 著作

1. (編著) *The Story of Apollonius of Tyre in Old and Middle English*, Sanshusha, Tokyo, 1991
2. "Some Notes on Translation--From Japanese into English," 『教育研究』, 33 (1991), 145-52
3. (共著) *Why English I* (学図, 平成6年度版, 1991)
4. (共著) *Why English II* (学図, 進行中)
5. 『講談社和英辞典』(共著)の全面改訂・増補(進行中)

IV. その他

1. 日本中世英語英文学会, 評議員, 1983～
2. 日本英語学会, 評議員, 1987～

R. H. スラッシャー教授

My research on the English proficiency of company entrants (naiteisha) using the Businessman's English Test and Appraisal (BETA) continued. In July I made a presentation to personnel officers of a number of major trading companies and banks and discussed the implications of my findings for their recruitment and in-service training.

Test related research for the YMCA included an examination of the reliability and validity of the screening device designed and implemented in the 1990 administration of the YMCA Test of English Proficiency (Y-TEP), on going research into a semantic based grading scheme for the dictation portion of Y-TEP, and the introduction of item response theory (IRT) to assure greater parallelism in the various administrations of Y-TEP.

I was also invited to make three presentations and conduct three workshops on language testing, the teaching of aural comprehension, and teacher self-evaluation at the YMCA English Teachers' Seminar at Gotemba in October 1990.

ピーター・B・マッキヤグ準教授

1. Research activities

I am currently working on a longitudinal study of writing development among Japanese EFL learners. In this study a large corpus of "novice" writer essays and "experienced" writer essays are being analyzed for features of discourse that influence perceptions of coherence.

I am also currently analyzing the responses to a survey of ICU faculty regarding English language activities in ICU classrooms. This information is expected to have implications for the type and amount of material selected for use in the English Language Program.

2. Presentations

Invited panelist at the 1990 ILT Annual Symposium "Prospects for Introducing Communicative Methods into Japanese EFL Classrooms"

3. Publications

A. Book Chapter

1. "Toward understanding coherence : A response proposition taxonomy" in *Coherence in Writing : Research and Pedagogical Issues*, Ulla Connor and Ann Johns (Eds.) TESOL : Washington D. C. 1990. pp. 111–130.

B. Articles

1. "Staff development activities in ICU's English Language Program" in *Daigaku Kyoin no Miryoku Kaihatsu*. Inter-University Seminar House. 1990. pp. 167–203.
2. "Kokusai Kirisutokyo Daigaku ni okeru Eigo Kyoiku" in *IDE* Number 317. 1990. pp. 43–46.
3. "Features of discourse and perceptions of coherence" in *ICU Language Research Bulletin* Volume 5, Number 1. 1990. pp. 21–36
4. "ICU's Approach to Language Learning" in *The Mainichi Daily News* November 30, 1990.

4. Others

Appointed to a third term as English Language Program Director. Edited the 6th edition of *The ELP Staff Handbook* and the 2nd edition of *The Student Guide to Writing in The ELP*.

Resident Director and Coordinator of the Study English Abroad (SEA) programs for North America. Established a new program at the University of British Columbia in Vancouver.

Member of *Kenkyusya's* high school English textbook writing and editing team—currently producing six textbooks (two general, two oral communication,

and two reading) for Monbusyo approval and publication by 1995.

ジョン・C・マーハ準教授

Research Activities

1. Sociolinguistic research on dialectal features in the Korean community in the district of Ikuno—ku, Osaka. October 1990, April, June and August 1991.
2. Research on the Origins of Japanese including visits to
 - (a) Kyushu National Museum of Historical Properties, Fukuoka.
 - (b) Museum of Historical Properties, Dazaifu.
 - (c) Museum of Ethnology, Osaka.
 - (d) Fukuoka City Museum, Fukuoka.
 - (e) Archives Collection, Kokuritsu Kokugo Kenkyuujo, Tokyo.
3. Development of a new theory of bilingualism and research on questions of Language, Nationalism and Ethnicity with Professor Kyoko Yashiro, Reitaku University. Forthcoming publication [in Japanese] “Nihon no Bairingarizumu” by Kenkyuusha, Tokyo.
4. Research on the concept of the ‘multilingual unconscious’ and the role of linguistic analysis in psychoanalytic theory.
5. Language Policy regarding Cebuano, Tagalog and English in Philippines. Schedule trip to Davao and Manila in August, 1991 cancelled owing to Volcanic eruption.

Conferences

Conference Organiser of “*Towards a New Order : an International Symposium on Bilingualism and Ethnic Diversity in Japan*” Sponsored by the Asian Cultural Studies Institute and held at ICU, April 27. This symposium included 13 speakers from Japan, Europe and North America with simultaneous translation in three languages : Japanese—English—Japanese Sign (JSL). Over 200 people attended this unique gathering designed to raise awareness of and honour Japan’s minority peoples and their efforts to maintain their languages and cultures.

Conference Organiser of *18th International Systemic Congress* held in ICU, July 29—August 2, 1991. This conference dealt with topics in systemic—functional linguistics in five areas : Computational linguistics, Asian linguistics, Educational and Clinical Linguistics, Lexicogrammar and Semantics, Text and Discourse.

Attendance at *Japan Society of Linguistics* 102nd Conference. Tokyo University of Foreign Studies, July 15–16, 1991.

Plenary Speaker at *Kansai Sociology Association* Annual Meeting Kobe University, May 25, 1991. “Ethnicity and Language : Post–structuralist approaches or “Where do we go from here” ?

Guest Speaker at *Kokuritsu Kokugo Kenkyuu—Jo*, Conference on Japanese as a Foreign Language : New Directions. July 29, 1991. “The Role of Linguistic Theory in Language Learning”.

Discussant in the *First Conference of the Inter–group Association for the Study of Minorities*, Tokyo YMCA, June 5, 1991 : Contribution : “Towards a New Theory of Bilingualism”.

Invited Speaker. The *Keio Psychoanalytic Association Special Lecture Series*. September 20, 1991. Keio University. “Freud and Bilingualism : the multilingual unconscious”.

Publications

- 1 . [In Japanese] (with Ikuko Yuasa). “Boundaries, Bilingualism and Ethnocentrism : The Case of Erika”. *Gengo*, Volume 20, No. 8, 1991, pp.28–35.
- 2 . “Language and the Professions” (with Denise Rokosz), R. Kaplan and W. Grabe (Eds.) *Introduction to Applied Linguistics*, New York : Addison Wesley, pp.221–260.
- 3 . [in Japanese] “Bilingual Policies in Britain”. *Proceedings of the 1st Conference on Minorities in Japan*. Tokyo : Intergroup Association for the Study of Minorities, pp.25–40.
- 4 . Review of ‘Eloquence and Power : Language Standards and Language Standardization’ by Earl Joseph, in *Language Sciences*, Vol. 24, No. 1.
- 5 . “North Kyuushu Creole : A Hypothesis concerning the Multilingual Formation of Japanese”, *International Christian University Library Open Lectures*, 1991, April, pp.14–48
- 6 . 「日本のバイリンガリズム」, ジョン・マーハ, 八代京子, 共編著, 研究社出版 (in press)

広瀬恵子研究員

- 1 . 研究活動

- (1) 第二言語習得における「繰り返し」(Repetition)の役割に関する研究。
- (2) 英語学習者のライティングにみられる問題点に関する研究。

2. 学会発表

- (1) 1991年5月11日に椋山女学園大学で開催された大学英語教育学会(JACE T)中部支部大会において「英文レポート導入部についての分析——日本人大学生の場合」と題して研究発表を行った。
- (2) 1990年11月23～25日に大宮市で開かれたJAL T年次大会に参加した。

3. 論文等

- (1) “Facilitating Learner Interaction : The Role of Proficiency Level in Grouping”, *JACET Bulletin*, 21, 39–58. (1990) (小林ひろ江氏と共著)
- (2) “Cooperative Small Group Discussion”, *JALT Journal*, 13, 1, May, 57–72. (1991)(小林ひろ江氏と共著)
- (3) 報告書「英語教育における英語運用能力養成に関する基礎研究と教授法開発」*I. F. Report* (石田財団) 18, Winter, 244–256. (1991) (小林ひろ江氏と共著)

4. その他(講演)

1991年2月27日, 国際基督教大学教育研究所において「A Study of Learners' Repetition in Spontaneous English Conversation」と題して講演を行った。

道又 爾 研究員

1. 研究活動

日本心理学会第55回大会(於東北大学, 1991年10月28日～31日)における発表のための実験及び原稿執筆, 「ストループ型干渉課題における大脳半球機能の非対称性(2)」

国際心理学会第25回大会(ブリュッセル, 1992年7月19日～24日)における発表のための実験及び原稿執筆, 「意味ネットワークの活性化過程における大脳半球機能の非対称性」「ストループ型干渉課題における大脳半球機能の非対称性(3)」

2. 学会発表, 参加

日本教育心理学会第32回大会(於大阪大学, 1990年10月11日～13日), 口頭発表「ストループ型干渉課題における大脳半球機能の非対称性(1)」

日本基礎心理学会第10回大会(於京都大学, 1991年7月11日～12日), 参加のみ

3. 論文, 著作

道又 (1991) 「視覚ラテラルリティにおける空間周波数仮説について」, 明治学院論叢第485号 心理学紀要 創刊号 33-48ページ

Nakanishi, N. and Michimata, C. (submitted) Recent Trends of Educational Psychology in Japan., 教育心理学年報第31集, 1991年度, 日本教育心理学会編

4. その他

翻訳「状況的認知と学習の文化」 現代思想1991年6月号, 青土社, 62-87ページ

佐藤史郎研究員

1. 研究活動: 英文の速読のための3つの方略(予想読み, 速読のための構文・文法知識の利用, 語彙の増強)のうち, 予想読みについて研究

2. 学会参加:

- ① 1990年度語学教育研究所研究大会(10月27~28日, 於東京外国語大学)に参加
- ② 1991年度語学ラボラトリー学会第31回全国研究大会(7月31日~8月1日, 於福岡大学)に参加

3. 論文: 「言語活動の活性化へむけて——オーラルコミュニケーションの場合」英米文学語学研究会論集 第4号(1991年12月刊行予定)

川津茂生助手

1. 研究活動

- (1) 対称図形の知覚
- (2) 視覚探索における非対称性(search asymmetry)の実験的研究(実験準備中)

2. 学会参加発表

- (1) 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル(P&P)研究分科会参加, 1990年11月1日, 上智大学
 - (2) 視覚探索研究会参加第1回, 1991年5月10日N T T基礎研究所
 - (3) " 第2回, 1991年7月7日N T T基礎研究所
 - (4) " 第3回, 1991年8月28, 29日, 長野県四賀村
- (以上の3回の視覚探索研究会で, 視覚探索に関する文献について報告した。)

3. 論文・著作

- (1) Dissociability of color and location in the perception of symmetry (in print)
- (2) 「探索非対称性」(執筆中)

保坂敏子助手

I. 研究活動

1. 日本語の読解学習における効果的教授方略に関する研究
2. コミュニケーション重視の教室活動に関する研究
3. ニューメディア教材の研究開発事業 (1990年度)

II. 学会参加

1. 1990年11月 第27回日本視聴覚学会, 第35回日本放送教育学会合同大会参加

III. 著作

1. 『日本語の読解学習におけるメタ認知的技法の効果に関する実証的研究ーアンダーラインの場合ー』 国際基督教大学大学院教育学研究科修士論文 1991年1月
2. 『試行としてのメディア・ミックス教材の開発第3年次報告書』(文省助成ニューメディア教材の研究開発)の「第4章 国内外における研究開発の現状(研究論文要約集)」の一部を担当 1991年3月
3. 「技術研修のための日本語教師用マニュアル」の書評 『日本語教育通信』第6号 国際交流基金 1991年5月

3. 大学院教育学研究科修士論文

1991年3月卒業者

A. 教育哲学

1. 永田 佳之 The Theory and Practice of 'Freedom' in A. S. Neill's Education : A Reconsideration

B. 教育心理学

2. 出井 まり 日常的なもめごとにおける夫婦の解決ストラテジーの選択について

3. 井尻多希子 米国在住経験を持つ日本人学生の社会的認知に関する一研究
— 米国在住時年齢別比較を通して —
4. 河津 真子 児童の位置と方向の理解に関する発達の研究
— 基準系概念学習の効果から —
5. 岡林 秀樹 大学生の人生観と学生生活に対する態度の関連について
6. 辻 あずさ 成体雄マウスにおける生活空間密度過多と新生仔に対する攻撃行動及び性行動との関係
7. 谷野 汐里 遊戯療法における分裂規制の治療的利用の臨床的検討

C. 視聴覚教育法

8. 木下 哲生 外国語としての日本語学習の達成度に影響を与える要因についての実証的研究
— 文法学習における教授法と学習者の情意的変数を中心に —
9. 岡部真理子 外国語としての日本語教育のためのコンピュータを用いた読解指導に関する実証的研究
10. 飯吉 透 ハイパーメディア教材を利用した学習に関する実証的研究
— 学習スタイルの分析および学習が知識構造の変化に与える効果の検証を中心に —
11. 待鳥 敏子 日本語の読解学習におけるメタ認知的技法に関する実証的研究
— アンダーラインの場合 —
12. 森 祐治 ゴール・ハイアラキーとメディア依存に関する実証的研究
— 大学生におけるジャンル別分析 —
13. 高橋 純子 外国語としての日本語教育のための探究訓練モデルを用いた読解学習に関する実証的研究

D. 英語教育法

14. 小池 由香 Regional Dialects in Tokyo : A Sociopsychological Study of Speakers, Attitudes and Preference
15. 田川憲二郎 A Study on a Pedagogically Motivated Artificial Vowel System of English

1991年6月卒業者

A. 視聴覚教育法

1. 齊藤 由也 英語のスペリング学習のためのCAIプログラムにおける視覚

B. 英語教育法

2. 小松 淑恵 Spoken versus Written English Discourse Revisited : an Application to the Teaching of the English Language
3. 高橋 光子 A Study of Metaphor : From the Experimental Research Concerning the Criteria of Literal Expressions and Figurative Expressions
4. 宅間 雅哉 A Study of Old English Prepositions of Space in the Parker Manuscript of the *Anglo-Saxon Chronicle*
5. 原 大介 A Linguistics Analysis of Sign Language : With Emphasis on Morphology and Its Application to Japanese Sign Language
6. 清岡 由紀 A Study of English and German Gender
7. 渡辺 真澄 A Neurolinguistic Analysis of Errors in the Expression Plane : an Investigation into Six Different Types of Speech Disorder

大学院教育学研究科博士論文

1991年6月卒業者

A. 教育哲学

1. 吉岡 良昌 キリスト教教育の哲学的研究 ― 信仰に基づく人間形成をめ
ぐって ―

5. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1991年度には78名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1) 実習生総数 78名

男 子 13名
女 子 65名

2) 実習日程及び実習校

- 4月23日～5月13日 立教中学校（東京）
- 5月23日～6月7日 神戸女学院（兵庫）
- 5月27日～6月8日 横浜市芹ヶ谷中学校（神奈川）、東海大学第三高等学校（長野）、敬和学園高等学校（新潟）、大分県立臼杵高等学校
- 5月29日～6月11日 埼玉県立熊谷高等学校
- 5月31日～6月13日 東京女学館中学高等学校（東京）
- 6月1日～6月14日 国際基督教大学高等学校、豊島岡女子学園高等学校（東京）、大阪女学院高等学校（大阪）、福山暁の星女子中学校（広島）、愛媛県立宇和島高等学校
- 6月3日～6月15日 三鷹市立第六中学校、豊島区立雑司谷中学校、文京区立第九中学校、杉並区立泉南中学校、都立新宿高等学校、武蔵高等学校、青山学院高等学校、明法高等学校、桐朋女子中学高等学校（東京）、浦安市立美浜中学校（千葉）、静岡市立長田西中学校（静岡）、大月市立猿橋中学校、甲府湯田高等学校（山梨）、名古屋学院高等学校、愛知県立

- 岡崎北高等学校（愛知），上尾市立大石中学校，埼玉県立浦和第一高等学校，淑徳与野高等学校（埼玉），伊勢崎市立宮郷中学校（群馬），長岡市立西中学校（新潟），千葉県立千葉高等学校，千葉県立検見川高等学校，和歌山県立向陽高等学校
- 6月4日～6月17日 広島大学附属中学高等学校（広島），都立西高等学校，富山県立高岡高等学校
- 6月6日～6月20日 香蘭女学校中学高等学校（東京）
- 6月10日～6月21日 玉川聖学院中学高等学校（東京），金城学院高等学校（愛知）
- 6月10日～6月22日 三鷹市立第四中学校，足立区立第九中学校，日野市立大阪上中学校，女子学院中学高等学校（東京），捜真女学校中学部（神奈川），柏市立土中学校（千葉），奈良教育大学教育学部附属中学校（奈良）
- 6月11日～6月24日 早稲田高等学校（東京）
- 6月12日～6月25日 不二聖心女子学院（静岡）
- 6月14日～6月27日 フェリス女学院中学高等学校（神奈川）
- 6月15日～6月28日 長野県立上田高等学校
- 6月17日～6月29日 小松市立芦城中学校
- 8月19日～8月31日 北海道立帯広柏葉高等学校
- 9月2日～9月14日 大阪府立豊中高等学校
- 9月9日～9月20日 静岡県立浜松北高等学校
- 9月9日～9月21日 埼玉県立羽生実業高等学校
- 9月16日～9月28日 淑徳与野高等学校（埼玉）
- 9月24日～10月7日 埼玉県立越谷北高等学校
- 9月30日～10月12日 朝霞市立朝霞第五中学校（埼玉）
- 10月7日～10月19日 上尾市立大石中学校（埼玉）
- 10月21日～11月2日 自由学園（東京）
- 11月5日～11月16日 国際基督教大学高等学校（東京）

3) 実習参加学生学科別内訳

学 科	性 別		計
	男	女	
人 文 学 科	5	6	11
社 会 学 科	1	10	11
理 学 科	4	7	11
語 学 科	2	29	31
教 育 学 科	1	13	14
比較文化研究科	0	0	0
教育学研究科	0	0	0
理学研究科	0	0	0
聴 講 生	0	0	0
合 計	13	65	78

4) 実習生教科別内訳

学 科	性 別		計
	男	女	
社 会	1	9	10
理 科	3	3	6
数 学	1	4	5
英 語	8	49	57
宗 教	0	0	0
合 計	13	65	78

2. 教員免許状取得状況報告

1991年3月卒業生390名(学部347名, 大学院43名)の内, 一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教免取得学生数(聴講生は除く)

学 科	性 別	取得者実数	中 一 種	
			中 一 種	高 一 種
人文科学科		7	5	7
社会科学科		14	10	14
理 学 科		8	7	8
語 学 科		22	16	22
教育学科		10	10	10
合 計		61	48	61

2) 教養学部教科別教免取得学生数(聴講生は除く)

教科 種別 学科	社 会		理 科		数 学		英 語		宗 教	
	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人文科学科		1					4	5	1	1
社会科学科	5	9					5	5		
理 学 科			3	4	3	4	1	1		
語 学 科							16	22		
教育学科							10	10		

3) 大学院教免取得生数

種 別		中一	高一	中専	高専
研究科	専攻科				
教育学研究科	教育哲学専攻				
	教育心理学専攻				
	英語教育専攻				
	視聴覚教育専攻				
行政学研究科	行政学専攻			2	2
比較文化研究科	比較文化専攻				
理学研究科	基礎理学専攻			1	1

※ 中・高一種免許状取得者は院在籍聴講による